

2023年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園小学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
 - (A) ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。
 - (B) ミッションスクールとしての特性を具現化する。
 - (C) 保護者の理解度を向上させる。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。
 - (A) 各学年にふさわしい安全教育・健康教育を実施する。
 - (B) 危機管理研修を実施する。
 - (C) 教育施設、教育設備、教育環境の充実を図る。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
 - (A) アシステンツァを励行する。
 - (B) サレジオ一貫教育を強化を図る。大阪星光学院及びカトリック系中学校との連携を深める。
 - (C) 発達段階や個別能力に応じた教科研究を実施する。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
 - (A) 校種間の連携を強化する。
 - (B) 宗教的行事、文化的行事、体育的行事等の共同実施の方向性を探る。
 - (C) 「城星オラトリオ」の始動に際して学校教育との連携を図る。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
 - (A) 保護者と寄り添いながら共通理解を図る。
 - (B) 小学校同窓会（FDDB）との連携を図る。
 - (C) 地域社会の人々との関わりを深める。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった10項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの人間性や道徳心の育成 ○全体的な本校への満足 ○教職員の建学の精神や教育目標の理解度 ○建学の精神・教育の理念に沿った教育の実践 ○学校生活の楽しさ ○教育理念の分かりやすい説明 ○安全・健康教育の実施 ○教職員研修による教育理念・目標の深化 ○教職員の挨拶と敬意ある言動 ○基本的な生活習慣定着のための指導 <p style="text-align: right;">(満足度90%以上)</p> <p><評価が相対的に低かった5項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達段階や習熟度に沿った家庭学習 ○連携校との連携強化 ○いじめの防止及び早期発見 ○同窓会・同窓生との連携 ○幼稚園及び中高との交流 <p style="text-align: right;">(満足度67~80%)</p>	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2023年度学校評価に関する検討は2024年4月13日(土)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果をしてみると、幼稚園・小学校・高校の連携に関する満足度が低い。幼小高の連携を深めていくために、例えば小学生が幼稚園と交流するなど、多校種が同じ敷地にある強みを活かした連携ができれば、学園全体が盛り上がるのではないだろうか。城星フェスタのような全体で行う行事や授業等があればよいと思う。 ・学園が一つにまとまっていくためには、中期行動計画を具体化するために何を变えていく必要があるのか問いかけながら実行していくことが必要である。 ・学園の「城星友の会」など新しい取り組みも行われている中で、教育のなかにも、外部企業とも連携して、社会に馴染むような教育、社会に出て活躍できる人の育成が大切だと思っている。 ・学園校舎建設を控える中、建物が上棟した際に、現場に入り、建設現場の方々の作業の種類に応じた活動の様子を見学する機会があれば願う。特に、現場監督として活躍している女性との交流や、脱炭素の実際の話をお聴いたりすることも可能だろう。普段ではできない体験ができる。
<p><アンケート総括></p> <p>例年同様「建学の精神」「教育理念」に関する設問の満足度が高かった。今年度は安全・健康教育の実施に関する評価が高まった一方、保護者からの相談対応に関する評価が前年度より低下した。保護者の皆さまはもとより、周辺の関係機関との連携を一層強く意識するとともに、日常の様子や指導等について適宜分かりやすくご報告することが必要であると反省している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを年3回実施しているが保護者の認知度が低い。校種間連携や同窓会関係についても、活動が保護者には見えづらいために評価が低くなっているところもある。さらなる対応として、ドン・ボスコ子ども未来センターを設置し、いじめはもとより、登校しづらい児童の対応に注力していく。 ・教職員同士が仲良く、方向性も一致していることは重要である。後援会とも協力して活動できればと考えており、例えば芸術鑑賞会などで後援会各位を招いてご一緒できればと考えている。 ・学校評価アンケートについて、保護者各位には回答のお手間をかけているところでもあるので、今まで以上に教員はこのアンケート結果の内容をしっかりと確認し、自身に反映させ、行動を変えていくことが求められる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度85%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。	達成可能な個々の目標設定のもと、理想の児童像である「光の子」を育成するため、宗教研修を活性化し、カトリック教育に対する理解や教員同士の信頼関係の深化を図る。	無条件の愛情によるミッションスクールとしての存在意義の認識	学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。 (満足度94.1%) 学校は、教職員研修などを通して、建学の精神や教育理念、教育目標が教職員に深化するよう努めている。 (満足度91.6%)	(○)丁寧な言動に努めている。保護者に対する敬語等の使い方指導することがある。
	(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロを初めとする諸聖人の生き方に倣い、その教えの通り社会のよきパン種となれるように具体的な目標を立て行動に移せるよう援助する。	「ファッチョイオ、ひと針ひと針に愛をこめて」の精神に支えられた、良心に基づいた意識の変化と行動の変容	学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。 (満足度93.9%) 学校は、宗教行事や宗教科授業、日々の祈りを大切に、子どもたちに誠実な人間性や道徳心を養おうとしている。 (満足度95.7%)	(○)光の子集会や学年集会等において「よきパン種」をからめて指導することができた。
	(C)保護者の理解度を向上させる。	保護者勉強会、ドン・ボスコ勉強会を実施し、ドン・ボスコ、マリア・マザレロが生きた時代の社会情勢や風土をもとに、その教育についての理解を深める。	カトリック精神、ドン・ボスコ、マリア・マザレロに対する保護者の意識高揚と教育共同体としての行動の変化	学校は、保護者に対して、建学の精神および教育理念やミッションスクールとしての意義を分かりやすく説明している。 (満足度92.7%) 学校は、保護者に対して、教育目標(および指導方針=シラバス)を分かりやすく説明している。 (満足度88.0%)	(○)学園長、校長、宗教部、1年生担任それぞれの視点で話すことができた。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	(A)各学年にふさわしい安全教育・健康教育を実施する。	学年別各種教室を実施する。コロナ感染症等予防教育を中心に安全で安心な登下校指導に重点を置く。年4回以上のいじめアンケートの実施、教員・保護者による通学路巡回指導の実施、避難訓練の実施を計画する。	児童及び教員の安心・安全な生活に対する意識高揚、具体的な行動の確認	学校は、避難訓練、感染防止対策の指導、下校指導等、適切な安全・健康教育を十分実施している。 (満足度92.3%) 学校は、いじめ(防止)アンケートを実施するなど、子どもからの訴えに耳を傾け、いじめの早期発見に努めている。 (満足度70.9%)	(△)感染症予防についての指導は継続中。いじめ案件について一部課題あり。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	(B)危機管理研修を実施する。	心肺蘇生法研修を実施する。新1年生対象に災害時児童引渡し訓練を実施する。また、防災、防犯訓練を実施する。	週1回の校舎内運動場の安全点検及びけが0デー(毎週金曜日)の意識化	—	(○)能登半島を中心に発生した大地震及び被災状況を鑑み、自身の課題として指導にあたりたい。
	(C)教育施設、教育設備、教育環境の充実を図る。	放送設備、wifi環境の充実を図り、児童の教育環境を向上させ教育内容の充実を図る。	アナログ教育を中心としたデジタル機器活用による学習の深化	学校の施設・設備は、学習環境の面で十分な機能を備え、清掃や安全管理が行き届いている。 (満足度86.6%)	(○)来年度、卒業記念品として、短焦点プロジェクターを購入し、デジタル教材の活用を考える。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	(A)アシステンツァを励行する。	「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る児童が愛されていると感じる指導の在り方、言葉のかけ方を考える。	優しさと自由に根ざした教育共同体としての信頼関係の確立	教職員は、授業はじめ、休み時間や放課後活動において、声かけや指導を通して、子どもたちに寄り添い、「アシステンツァ」を励行するよう努めている。 (満足度86.6%)	(○)報告・連絡・相談の徹底を図るとともに、保護者への連絡強化を実践する。
				教職員は、教職員間で連携し、アシステンツァの励行に努めている。 (満足度90.8%)	
	(B)サレジオー貫教育を強化を図る。大阪星光学院及びカトリック系中学校との連携を深める。	合同研修会、ほしゼミ、チャレンジゼミ、特別選抜制度を継続維持し実施する。	サレジオー貫教育の推進と進路指導の充実	学校は、サレジオー貫教育を強化するため、大阪星光学院との連携を深めている。 (満足度80.5%)	(△)チャレンジゼミの継続実施。星光学院への下学年からの行事等への参加を呼びかけたい。
			学校は、教育連携校はじめ、各々が進学希望する中学校の情報収集に努め、進路指導を強化している。 (満足度73.7%)		
(C)発達段階や個別能力に応じた教科研究を実施する。	児童・保護者のニーズに応えるべく、学年や教科主体での研究活動の強化とともに全体レベルでの深化を図る。場合によっては、Zoom配信動画配信等による教育活動の実施を行う。	自主自律の学習意欲の向上	学校は、各教科研究を行い、教材や教科指導を工夫し、子どもたちの理解力向上に努めている。 (満足度90.6%)	(○)教育目標やドン・ボスコの教えに基づいた学習方法の確立を図りたい。	

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	(A)校種間の連携を強化する。	授業参観や研究授業、校種間教員派遣等を通して、幼・小・中高の教員の連携を強化する。	幼小中高教員の連携強化	学校は、幼、小、中・高の交流や連携を図ろうと努めている。 (満足度67.0%)	(△)6年と年長児の交流を実施。他校種教育活動の理解のため、相互の参観を実施したい。
	(B)宗教的行事、文化的行事、体育的行事等の共同実施の方向性を探る。	カトリックミッションスクールの総合学園としての在り方を模索し、多方面からの保護者の学園理解を図る。	総合学園としての連携強化	-	(△)ゴミサやフェスタなどの行事への参加の他、小学校行事への参加を呼びかけたい。
	(C)「城星オラトリオ」の始動に際して学校教育との連携を図る。	ドン・ボスコの予防教育法に根差した、かつ保護者のニーズに合致した学童保育の実施に協力する。	サレジオ家族の一員としての意識強化	-	(○)内容についての満足度は高く、順調に会員数は増えている。更なる充実が求められる。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	(A)保護者と寄り添いながら共通理解を図る。	児童の発達段階に応じて話題を共有しあい、成長を確かめ合う機会をより多く持つ。適時Zoom配信による懇談会の実施を考える。	家族的な雰囲気、教育共同体の一員としての自覚の促進	学校は、保護者に対して、子どもの学習状況や友達関係、学校生活に関する情報を適時適切に伝えている。 (満足度82.7%)	(△)学級懇談会、進学懇談会、個人懇談会等を対面で行えたが、保護者からの評価結果はやや厳しいものであった。
				学校は、保護者に対して、教育目標(および指導方針＝シラバス)を分かりやすく説明している。 (満足度88.0%)	
				教職員は、保護者の相談に適切に対応し、成長や課題を伝え、共通理解を図ろうと努めている。 (満足度85.8%)	
	(B)小学校同窓会(FDDB)との連携を図る。	同窓会会員の結束を図るとともに、城星フェスタや学校行事、日常生活の必要に応じて教育活動に理解、協力を願う。	城星ファミリーとしての同窓会との連携	学校は、同窓会や同窓生との連携を図ろうと努めている。 (満足度68.5%)	(△)フェスタでは星光学院の生徒のみならず、多くの卒業生が積極的に参加していた。これを他の活動にも広げていくことが課題である。
(C)地域社会の人々との関わりを深める。	児童会活動等を中心に登下校や利用交通機関等でお世話になっている方々に挨拶や感謝の気持ち伝える活動に取り組む。	自主的かつ積極的参加によるサレジオ精神の実践化	教職員は、子どもに隣の方々やお世話になっている方へのご挨拶や感謝を伝えることの大切さを教え、実践するよう指導している。 (満足度83.4%)	(△)地域社会の皆さまとの接点を模索中。能楽堂関連でご紹介はできた。	